≪QE予測シリーズ No.2012-7≫

2012年10～12月期GDP統計予測

（1）2012年10～12月期の実質GDP成長率は、前期比年率+0.8%（前期比+0.2%）と小幅ながら3四半期ぶりにプラス成長となった見込み（図表1）。外需の低迷が続くなか、個人消費や公共投資など内需が景気を下支え。

①外需（前期比年率寄与度▲0.1%ポイント、前期比寄与度▲0.0%ポイント）
輸出は景気後退が続く欧州や日中間での摩擦が高まる中国向けでそれぞれ減少。もっとも、輸入もエネルギー関連財市場の減少などを受けて、大幅に減少。その結果、外需のGDP寄与度は引き続きマイナスとなったものの、前期からは縮小。

②設備投資（前期比年率▲4.7%、前期比▲1.2%）
昨年夏以降の海外景気減速や生産減少による収益下振れ圧力の増大を受けて、企業は引き続き設備投資に対して慎重姿勢。

③個人消費（前期比年率+1.4%、前期比+0.4%）
昨年夏以降の海外景気減速や生産減少による収益下振れ圧力の増大を受けて、企業は引き続き設備投資に対して慎重姿勢。

④公共投資（前期比年率+4.9%、前期比+1.2%）
震災からの復旧・復興に向けた動きの本格化を受けて被災地での建設投資などが引き続き増加。

（2）2013年1～3月期を展望すると、①米国、中国をはじめとする海外景気の回復や、日中摩擦のマイナス影響減衰を受け、輸出が持ち直すこと、②昨年秋以降の円相場の下落を通じて、輸出企業を中心に収益環境が改善すること（図表2）、③エコカー補助金終了に伴う自動車販売の反動減が一巡し、個人消費が回復すること、などを受け、昨年春以降悪化していたわが国景気は底入れし、成長率が加速する見通し。
### GDP統計予測表（2013年2月1日時点の公表系列をもとに作成）

#### ■ 前期比

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度/季</th>
<th>実需GDP</th>
<th>名目GDP</th>
<th>アレーター</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>前期比 (%、十億円)</td>
<td>前期比年率 (%、十億円)</td>
<td>前年同期比 (%、十億円)</td>
</tr>
<tr>
<td>2011/7-9</td>
<td>2.5</td>
<td>10.4</td>
<td>-0.5</td>
</tr>
<tr>
<td>2011/10-12</td>
<td>0.1</td>
<td>0.3</td>
<td>-0.2</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/1-3</td>
<td>1.4</td>
<td>5.7</td>
<td>3.4</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/4-6</td>
<td>0.0</td>
<td>0.1</td>
<td>0.1</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/7-9</td>
<td>0.9</td>
<td>3.5</td>
<td>3.5</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/10-12</td>
<td>0.2</td>
<td>0.4</td>
<td>0.5</td>
</tr>
</tbody>
</table>

#### ■ 前期比・寄与度 (%、%ポイント)

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度/季</th>
<th>寄与度 (%、%ポイント)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>2011/7-9</td>
<td>2.5</td>
</tr>
<tr>
<td>2011/10-12</td>
<td>0.1</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/1-3</td>
<td>1.4</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/4-6</td>
<td>0.0</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/7-9</td>
<td>0.9</td>
</tr>
<tr>
<td>2012/10-12</td>
<td>0.2</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### (注1) 民間在庫、公的在庫、外需の前期比、前年同期比はそれぞれ前期の差、前年同期の差。

### (注2) 実績値は、基礎統計の追加、季節調整のかけ直しなどの要因により、内閣府公表の数値とは異なる可能性もある。